

シニア・ストラテジスト  
山本 雅文

マネックス証券株式会社  
www.monex.co.jp

## 欧米のミニッツ・マングローブはタカハト見分けがつくか

### <ポイント>

- ◆昨日はまちまちの動きとなった。原油などコモディティ価格は上昇が一服したが豪ドルや NZドルなどのコモディティ通貨はプラス圏を維持し続伸となった。他方、ドル/円は米中長期債利回りは持ち直しが続いたが、日銀決定会合での追加緩和見送りを受けて 120 円台から 119 円台後半へ小幅下落した。
- ◆なお、今週入り後は弱い米雇用統計を受けた米利上げ期待の後退と資源価格の反発の中で、これまで大きく売り込まれていた新興国通貨の反発が著しい。先週末対比で、ロシアルーブル、インドネシアルピア、マレーシアリングgitは対ドルで各々7.5%、6.1%、4.7%の上昇となっている。個別の好材料が出ている訳ではないが、これだけ大きな反発となると、弱気見通しが後退する可能性が出てくる。
- ◆本日は、本邦 8 月経常収支(8:50)、本邦 9 月景気ウォッチャー調査(14:00)、英 BoE 金融政策決定・議事要旨(20:00)、ECB 議事要旨(20:30)、米新規失業保険申請件数(21:30)、ブロード・セントルイス連銀総裁発言(22:30)、コチャラコタ・ミネアポリス連銀総裁発言(2:00)、米 FOMC 議事要旨(3:00)、カーニー英 BoE 総裁発言(3:00)、ウィリアムズ SF 連銀総裁発言(4:30)などが予定されている。
- ◆ドル/円では FOMC 議事要旨が注目で、弱い米雇用統計前の議論ではあるが、9 月 FOMC 声明文よりもタカ派的で利上げに向けた議論が多く含まれたタカ派的な内容となるリスクがあり、ドル下支え要因となりそうだ。とは言え、今回の議事要旨で年内利上げ期待が強まるとは想定しづらく、ドル/円は 119-121 円のレンジ相場が続くそうだ。

### 昨日までの世界: 正午過ぎの円高

ドル/円は、日銀決定会合で一部に追加緩和期待があったものの追加緩和が決定されず現状維持となり、景気・物価認識も前月から変化しなかったことから、タカ派的な内容と受け止められ、失望から円高となり、120.30 円前後から 119 円台後半へ下落した。その後は、米中長期債の米雇用統計後の持ち直し傾向が続く中で 120 円台を回復する局面もあったが、NY 時間に再び下落し、一時 119.75 円の安値をつけた。

黒田総裁記者会見でも、目先の追加緩和姿勢は全く示されなかったとあっていいが、市場では今回見送りでも次回 10 月 30 日に成長率・物価見通しの引下げと共に追加緩和を行うとの期待が根強く、ドル/円の下落は限定的となった。但し筆者は、政府・日銀の最近の姿勢変化を踏まえると年内は追加緩和が見送られ、ドル/円は米利上げ期待頼みの展開になるとみている(詳細は昨日付け投資戦略テーマ「[ドル/円: 追加緩和はまぼろし?](#)」を参照)。

ユーロ/ドルは、欧米時間にかけて 1.12ドル台後半から 1.12ドル台前半へ軟化した。ドイツ鉱工業生産

が前月比-1.2%と予想外の大幅マイナスとなり、ドイツ 10 年債利回りが低下したことなどが背景にあるが、基本的に小動きで、1.12 ドルを中心としたレンジ内推移が続いている。ドイツ鉱工業生産も前月分は上方修正されている。

ユーロ/円は、ドル/円とユーロ/ドルが共に下落したことから、135 円台半ばから 134 円台後半へ下落した。

豪ドル/米ドルは、原油などコモディティ価格の反発や、米雇用統計後の新興国通貨全般の反発基調の中で持ち直しが続き、0.71ドル台半ばから一時 07235ドルの高値をつけた。但し引けにかけては、原油価格が反落したことから反落している。

豪ドル/円も、86 円丁度近辺からじり高となり一時 86.89 円の高値をつけた。

### きょうの高慢な偏見：欧米のミニッツ・マングローブはタカハト見分けがつくか

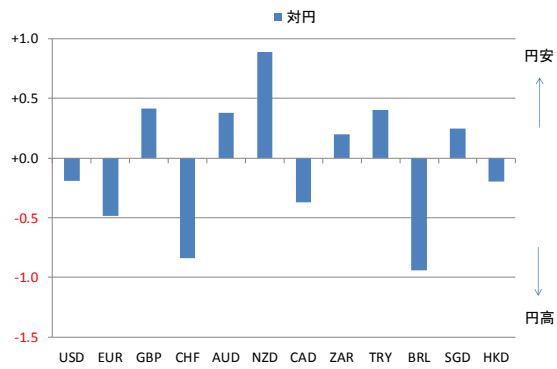
#### [今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

ドル/円は FOMC 議事要旨(ミニッツ)が注目度、弱い米雇用統計前の議論ではあるが、ハト派的と解釈された 9 月 FOMC 声明文よりも、利上げに向けた議論が多く含まれたタカ派的な内容となるリスクがあり、ドル下支え要因となりそう。とは言え、今回の議事要旨で年内利上げ期待が強まるとは想定しづらく、ドル/円は 119-121 円のレンジ相場が続くそう。

ユーロ/ドルは引き続き 1.12 ドル丁度を中心としたレンジ取引が続くそう。ECB9 月 3 日定例政策理事会の議事要旨が発表されるが、最近の ECB 高官発言と同様に、原油安を受けた総合インフレ低迷継続リスクが指摘される一方で、追加緩和には慎重な姿勢が改めて示される可能性が高く、どちらかというハト派度の後退からユーロ下支えとなる可能性がある。

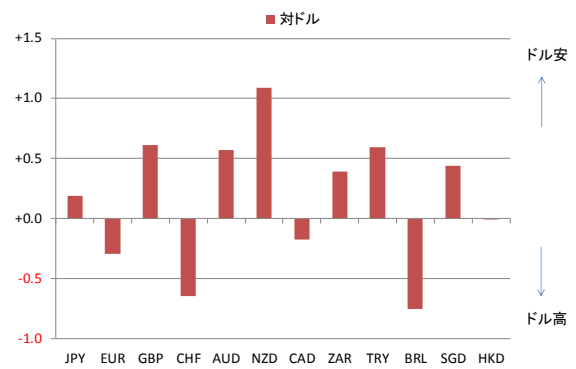
豪ドル/米ドルは、再開する中国株価やコモディティ価格、そして反発が著しいインドネシアルピアやマレーシアリングgitなどのアジア通貨動向を睨んだ展開となる。コモディティ価格やこれらアジア通貨の上昇が続けば豪ドルの持ち直し基調が続くそうだが、原油のように昨晩で上昇が一服したとすると、再び上値が重くなるリスクがある。

主要通貨の対円相場(前日比%)



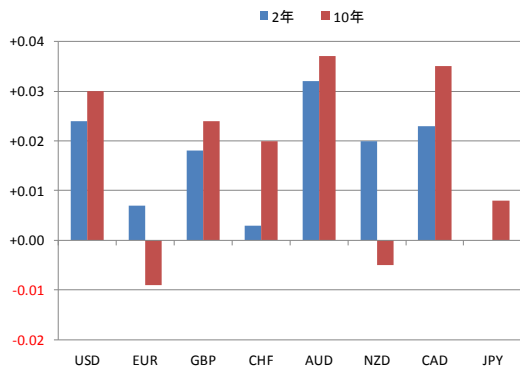
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



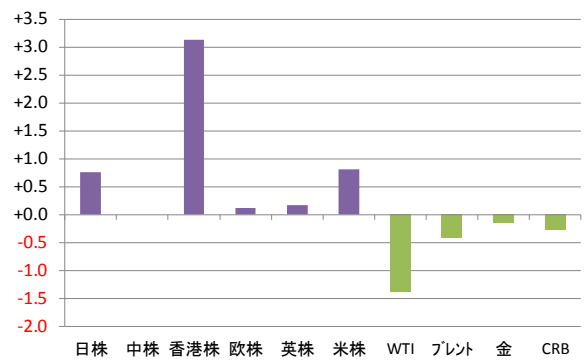
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

**ご留意いただきたい事項**

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会